

2020年6月22日

大阪府議会 2025年大阪・関西万博推進特別委員会

大阪・関西万博の開催に向けた現状等について

EXPO
2025
OSAKA, KANSAI, JAPAN

2020年6月
大阪府政策企画部万博協力室

〔本日の内容〕

- 1 大阪・関西万博の概要
- 2 新型コロナウイルス感染拡大による万博への影響
- 3 交通アクセス
- 4 パビリオン等地元出展に関する有識者懇話会

1 大阪・関西万博の概要

■ 名称

- ◆ 日本語（正式）：2025年日本国際博覧会 /（略称）：大阪・関西万博
- ◆ 英語：EXPO2025, OSAKA, KANSAI, JAPAN

■ 開催期間

2025年4月13日（日）～10月13日（月）

■ 開催場所

夢洲
約155ha

■ 入場者（想定）

約2,800万人

■ 開催経費

<会場建設費>

1,250億円（想定）

<運営費>

809億円（想定）



資料提供：経済産業省

2 新型コロナウイルス感染拡大による万博への影響

1 B I E（博覧会国際事務局）総会の延期

- ・ 4月23日、経済産業省から新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、本年6月に予定されていたB I E総会が延期されることが発表された。

2 ドバイ万博開催の1年延期

- ・ 主催国のアラブ首長国連邦（U A E）によるドバイ万博の開催延期の提案を受けて、B I E加盟国の遠隔投票により会期変更が正式に承認された。

3 プロデューサーの選定・ロゴマークの決定の延期

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、本年春頃に予定されていたプロデューサーの選定及びロゴマークの決定が延期された。



《今後の予定》

- 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、年内開催予定のB I E総会での登録申請の承認を目指す。
- ドバイ万博の開催期間が2021年10月1日～2022年3月31日へ変更。名称はExpo 2020 Dubai(2020年ドバイ国際博覧会)を継続使用。

3 交通アクセス

ピーク時間(8時台)来場者数の上振れリスク

日來場者の機関分担

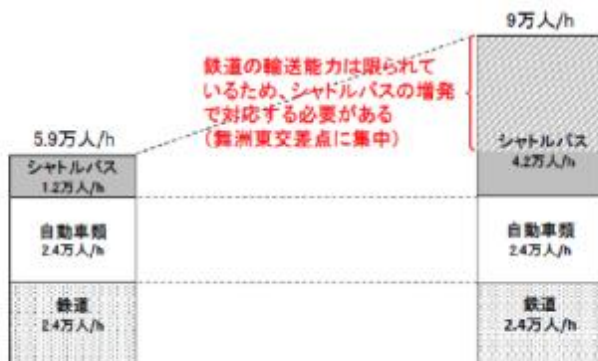


日來場者数は変更なし

ピーク時(8時台)の機関分担

(博覧会協会によるピーク時間交通量の検討)

テーマパークのピーク時来場者比率を元に、8時台に予想以上に来場者が集中するリスクを想定



計画交通量 (変更なし)

今回の検討

※ 機関別での関係で合計値は一致しない

物流交通対策

(写真はイメージ)



※合計約3,000台

舞洲東交差点の立体交差(イメージ)



4 パビリオン等地元出展に関する有識者懇話会

2025年大阪・関西万博におけるパビリオン等地元出展参加に関する検討について

- 《当面の目標・到達点》令和元年9月定例会において知事より地元パビリオン出展にかかる検討を表明 ※大阪府・市で検討をスタート
- 2019年度 → 有識者等で構成する「大阪・関西万博におけるパビリオン等地元出展に関する有識者懇話会」を設置。出展参加の方向性やその骨格をまとめるための議論をスタート。
 - 2020年度 → 出展基本構想を策定（予定）。

【大阪・関西万博におけるパビリオン等地元出展に関する有識者懇話会】

＜委員＞

- 東 博暢〔日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門 プリンシパル〕
- 大西 流星〔ジャニーズ事務所所属なにわ男子メンバー〕
- 佐久間 洋司〔大阪大学学生人工知能研究会／AIR代表〕
- 澤田 裕二〔UG WORK 合同会社代表／プロデューサー〕
- 鈴木 裕子〔(株) Office musubi 代表取締役〕
- 巽 樹理〔追手門学院大学社会学部 准教授〕
- 遠山 正彌〔地方独立行政法人大阪府立病院機構理事長〕
- Nigel D.R.Simpson〔公益財団法人大阪観光局大阪観光アドバイザー〕
- 西澤 良記〔公立大学法人大阪理事長〕
- 橋爪 紳也〔大阪府立大学研究推進機構特別教授・観光産業戦略研究所長〕
- 森下 竜一〔大阪大学大学院医学系研究科寄附講座教授〕

＜特別アドバイザー＞

- 高橋 政代〔(株) ビジョンケア代表取締役社長〕
- つくも 〔音楽家、総合エンターテインメントプロデューサー〕
- 山中 伸弥〔京都大学iPS細胞研究所所長／教授〕

【検討スケジュール】

2019年度～2020年度【第1フェーズ】

- 2019年12月に「有識者懇話会」を設置
- 出展に向けた論点・課題などについて議論をスタート

主な論点・課題	議論する内容（例示）
第1フェーズで議論	<ul style="list-style-type: none"> ・出展テーマ ・展示内容 ・出展形態 ・運営主体 ・出展規模
第2フェーズ以降、具体的な方向性について議論	<ul style="list-style-type: none"> ・開催都市にふさわしいテーマとは ・コンテンツの設定（何を見せるか） ・自治体単独or産学等との共同出展 ・自治体直営 or 実行委員会方式ほか ・展示内容、出展形態に応じた規模は ビッドノ江 → 敷地面積15,000㎡、延床面積9,000㎡ ・財源確保策 愛知万博 → パビリオン建設費約20億円（2館） 運営費その他約40億円 パビリオン運営職員39名＋非常勤29名 ・万博開催後の自治体館の活用方策 ・展示以外の交流・体験手法など ・レガシー ・その他

2020年度【第2フェーズ】

- 第1フェーズで議論した出展テーマや展示内容をベースに展示形態・運営主体・財源確保策・レガシー等の具体的な方向性を「有識者懇話会」で議論
- 第4回有識者懇話会開催（6月16日）
- 9月頃までに「出展基本構想（素案）」をとりまとめ
※出展基本構想（素案）のブラッシュアップ
- 12月までに「出展基本構想（素案）」のパブリックコメントを実施
- 2月初旬には「出展基本構想（案）」のとりまとめ
- 3月末に「出展基本構想策定」

2021年度～【第3フェーズ】

- 実施に向けた「出展基本計画」の策定
- ・実行組織（実行委員会等）の立ち上げ
- ・有識者（プロデューサー他）等による詳細かつ専門的な検討

2022～2024年度【第4フェーズ】

- パビリオン等の整備
- ・パビリオンの基本設計・実施設計
- ・パビリオンの建設・整備
- ・展示物の製作及び設置・展示準備

2024～2025年度【第5フェーズ】

- パビリオンの運営
- ・開幕に向けて運営体制整備・運営準備
- ・展示・体験イベント等の準備・調整
- ・内覧会、プレオープン
- ・開催期間中の運営業務
- ・運営記録集の作成、パビリオンの撤去等



4 パビリオン等地元出展に関する有識者懇話会

2025年大阪・関西万博におけるパビリオン等地元出展参加に関する検討 ～第4回懇話会概要～

出展でめざすもの

世界に貢献する大阪の姿を示す

- **生活の質（QOL）を向上させる展示**：健康寿命を延ばし、生涯にわたり生き活きたした生活を送れるよう、生活の質（QOL）を向上させる展示を実現
- **SDGs達成に貢献する姿を示す**：「いのち」に対する価値観や考え方が大きく変わる、SDGs達成目標の2030年以降を見据えて取り組む大阪の姿勢を示す
- **未来社会のモデルを提案**：新技術やサービスを実装・実証し、誰もが心身豊かで快適に暮らしやすい未来社会のモデルを創造し提案する取組を目指す

大阪のパワーを世界に発信

- **世界中からのアクセスを実現**：世界中からのアクセスを実現し、訪れた方にもバーチャル技術を駆使し、大阪の未来やパワーを感じてもらう
- **大阪の魅力を世界に発信**：大阪ならではの「人そのものの魅力」や「大阪の食文化」などの魅力を世界に発信し、大阪と世界との交流を巻き起こす

出展参加テーマ

『REBORN（リボーン）』

【テーマの解説概要】

“人”は生まれ変わる”

大阪・関西万博開催を機に、すべての「人」が自分らしい生き方をあらためて見つめ直すことで、自分自身の価値観や生き甲斐の発見・再認識、自己実現への意欲・意識の変革を促し、新たな自分への「生まれ変わり」に貢献する。

“新たな一歩を踏み出す”

家族・地域の一員として、地球市民として、今自分に何ができるかを再認識し、一人ひとりの意欲・意識の変革が具体的な行動変容へとつながり、より良い生活環境、暮らしやすい社会創りに貢献し、「いのち輝く未来社会」につなげる。

テーマ展開の視点

テーマ「REBORN（リボーン）」のもと、「健康」という観点から未来社会の新たな価値の創造に取り組む。

「知る・感じる」「体験できる」「みんなで参加できる」という視点から、展示やイベントを通じて2025年大阪・関西万博の3つのサブテーマ、「Saving Lives（いのちを救う）」、「Empowering Lives（いのちに力を与える）」、「Connecting Lives（いのちをつなぐ）」にアプローチ。

(1) 生活の質（QOL）の向上に資する新たな価値創造

2020年の新型コロナウイルス禍の経験も踏まえ、『健康』という観点から最新の技術を活用したイノベーションによって新たな価値を創造し、最先端の医療や幸福な生き方のできる未来社会を具現化。

(2) 生き活きと元気に楽しく生きる提案

「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」という視点から、「自分自身を見つめなおす」「自己実現意欲を高める」「自分らしい生き方を再認識・再発見する」、そのような体験を提供する。

(3) サイバー空間とフィジカル空間の融合

世界中の人々がアクセスできるサイバー空間のより効果的な活用、イノベーションによって新たなエンターテインメントを創出し、リアルな体験、バーチャル体験など、工夫をこらした展示を実現する。

展示・催事の構成（イメージ）

